

姫路顕栄教会

# エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

## 弱い時にこそ強い

わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 12:9)

上記の御言葉は使徒聖パウロが「自分の身に与えられた一つのとげ」と呼んでいるものを主に取って去ってくださるようにと願ったとき、主から返ってきた御言葉です。このパウロが「とげ」と呼んでいるものが何かについては眼の病気とも、熱病とも色々言われていますが、かなり苦痛の伴う持病であったと考えられます。

パウロはそのために三度祈ったと言っています。パウロともあろう人が三度祈ったということは、必死の祈りであったことが伺えます。それは自分の苦痛を取り除くことだけが目的なのではなくて、そのハンディさえなければ、さらに福音の宣教に打ち込んで行けるのにという思いがあったことでしょう。

しかしパウロは主からの答えをを従順に受け入れて次のように語っています。

「だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの常態にあっても、キリストのために満足しています。何故ならわたしは弱い時にこそ強いからです。(Ⅱコリント 12:9-10)」

このパウロの言葉と相通じることを語っている詩を紹介したいと思います。

## 病者の祈り

私は目的を達成するために、神に力を求めたしかし、私は謙遜を学ぶために、弱い者とされた。

私はさらに偉大なことをするために、神に力を求めた。

しかし、私はさらに良いことをするために、病弱を与えられた。

私は幸福になるために、富を求めた。

しかし、わたしは賢くなるために、貧しさを与えられた。

私は人々の賞賛を求めるために、権力を求めた。しかし、私は神の必要を覚えるために、弱さを与えられた。

私は人生を楽しむすべてのものを求めた。

しかし、私はすべてのことを楽しむために、命を与えられた。

私は自分の求めたものを、何も与えられなかった。

しかし、私は望んでいたものをすべて得た。

私の祈りは、知らず知らずのうちに応えられた。

私はすべての人の内、もっとも豊かにされたのである。

「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」という主の御言葉は慰めに満ちています。しかしながらこの御言葉を受け入れるに至る過程は多大な試練の道だった筈です。その試練の中で尚も神を信じ続ける時にこそ辿り着いた答えであったことでしょう。

私たちもこの「弱い時にこそ強い」という御言葉を心に留めて参りたいと思います。

